

# 第 5 学 年 総 合 学 習 指 導 案

5 年 2 組 指 導 者 小 林 弘 典

## 単 元 守 ろ う わ た し た ち の 五 十 鈴 川

### 1 単元について

本学級の子どもたちは、3年生の学習で、ホテルの専門家の方の話を聞き、ホテルがすみやすい環境をつくるためにできることを考え、仲間と共に思いをもって環境に働きかけた。このような子どもたちが、仲間や地域の人とかかわりながら、きれいな五十鈴川を守っていくために自分たちにも何かできないかと考え、実践していく。このことは、人と人とかかわりながら環境を守っていく大切さに気づき、環境保全に貢献する喜びを味わうことにつながるであろう。

本単元は、地域の一員としてきれいな五十鈴川を守りたいという思いをもち、自分たちにできることを考え、実践していく学習である。身近な五十鈴川に繰り返しかかわることで、子どもたちは五十鈴川に愛着をもつ。そして、「五十鈴川を守る会」の人の思いを受けとめることで、自分たちにも何かできないかと考え、実践していく。その際、子どもたちが未来をイメージして活動を考えることを大切にしたい。そうすることで、環境を守る難しさに気づき、五十鈴川を守りたいという思いを強くすることにつながると考えるからである。

そこで、以下のような支援を行っていく。

- 五十鈴川にかかわる活動と、「五十鈴川を守る会」の田畑さんの思いにふれる活動などを繰り返す単元構成を仕組む。そうすることで、自分たちの思いや実践と、地域の人の思いとを関連させながら、五十鈴川を守る活動について考えることができるようにする。
- 気づきや活動場所を川の絵に蓄積していく。そうすることで、空間と時間の視点をもって五十鈴川を守る活動について考えることができるようにする。
- 第2次以降は、授業の終末に「五十鈴川を守る上で大切なこと」を視점에振り返るよう促す。その際、活動を長期的に捉えた考えを見取り、全体に広げる。そうすることで、未来の五十鈴川を見据えながら、今後の活動について考えていくことができるようにする。

### 2 目 標 (自然環境)

- 五十鈴川で遊ぶことや、「五十鈴川を守る会」の人との出会いをとおして、地域の一員としてきれいな五十鈴川を守りたいという思いをもち、自分たちにできることを考え、実践することができるようにする。
- 人と人とかかわりながら環境を守っていく大切さに気づき、環境保全に貢献する喜びを味わうことができるようにする。

### 3 評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
○五十鈴川の自然環境について、調べて分かったことをもとに、紹介している。	○五十鈴川の自然環境について、調べたことや聞いたことをもとに、自分にできることを考えている。	○五十鈴川の自然環境に関心をもち、環境を守るために自分にできることを考え、進んで実践しようとしている。

### 4 指導計画 (全 3 5 時間)

第 1 次 五十鈴川の自然観察を行う (15時間)

第 2 次 五十鈴川の自然を守るためにできることを実践する (15時間) 【本時 9 / 1 8】

第 3 次 これまでの学習を振り返る (2時間)

### 5 本時案 【平成 2 9 年 1 1 月 2 4 日 9 : 3 0 ~ 1 0 : 1 5 2 年 D 組教室】

- (1) ねらい 前時の振り返りを交流することとおして、五十鈴川を「守る」とはどういうことかを考え、次時への見通しをもつことができるようにする。

(2) 学習過程

学習活動／子どもの意識	支援
<p>① 前時の振り返りを交流する (35分)</p> <p>学習内容 ・今後の活動についての意欲(態) ・思いをもとにした今後の活動についての交流(思)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この前は、1回目のゴミ拾いよりも広い範囲でゴミを拾えたね。</li> <li>みんなで分担してゴミを拾ったからきれいになったね。</li> </ul> <p>これで五十鈴川を守ることができたね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見た目はきれいにできたけど、まだ守りきってはいないと思うよ。2週間後はまたゴミがあるかもしれないからね。</li> </ul> <p>A それなら、2週間後にまたゴミを拾いに行ってもいいのかな。</p> <p>B それだときりがないよ。田畑さんでも1年に1回の活動だったよ。ぼくたちは、いつまでゴミを拾い続けたらいいのかな。 <ul style="list-style-type: none"> <li>そもそもゴミを捨てないよう、ゴミ箱を置いてみてはどうかな。</li> <li>なるほど。それなら、ゴミがたくさんあった場所にゴミ箱を置くといいのではないかな。</li> <li>そんなにたくさんゴミ箱を用意するのは大変ではないかな。</li> <li>看板を置いたらどうかな。看板を置くことで、ゴミを捨てる人が少なくなって、守ることにつながるよ。</li> <li>でも、看板もゴミ箱も勝手に置いてもいいのかな。</li> </ul> <p>A いろいろ問題があって、守るって難しそうだな。 <ul style="list-style-type: none"> <li>だからこそ、できることからやってみようよ。</li> <li>田畑さんたちのように活動を続けることも、守るためには大切だと思うよ。</li> </ul> <p>B ぼくたちの考えたことが守ることにつながるのか、本当にできることなのか、田畑さんに聞いてみたいな。</p> </p></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○板書上に川の絵を提示し、その絵を用いて気付きや考えを話すよう促す。そうすることで、仲間の発言の具体を捉えることができるようにする。</li> <li>○子どもから具体的な方策が出た際には、守ることにつながるのかを問い返す。そうすることで、具体的な方策と自分たちの思いとを結び付けて話し合うことができるようにする。</li> <li>○振り返りの場面で、活動を長期的に捉えた考えがあった際は取り上げ、その考えを全体に広げる。そうすることで、次時以降でも、未来の五十鈴川を見据えながら、今後の活動について考えていくことができるようにする。</li> </ul>
<p>② 学習を振り返る (10分)</p> <p>学習内容 ・自分たちの思いをもとにした活動への関心(態)</p> <p>A 続けることが大切なのは分かるけれど、限界もあるよ。例えば、ぼくたちが卒業した後の五十鈴川はどうなっていくのだろう。</p> <p>B ぼくたちが今考えていることを田畑さんに聞いてもらいたいし、もう一度田畑さんの思いや活動について聞きたくなったよ。</p>	

6 板書計画

